# 令和元年度

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

# 事業報告書

一般財団法人 九州産業技術センター

# I 事業概要

# 1. 産業技術振興事業

214,539 千円

# (1) 九州 Earth 戦略に基づくイノベーション創出事業

【 J K A 補助事業】 14,904 千円

九州 Earth 戦略の一翼を担うため、コーディネート活動により調査・発掘した中小企業の技術やノウハウ等を、他の産業支援機関等と連携して、九州内外の企業や大学とのマッチングやブラッシュアップ等を通じて事業化を目指す一貫した技術開発支援体制を構築する。さらに、案件を国の技術開発事業等に申請して更なるレベルアップを図り、事業化プロデューサ等により事業化を実施するまで支援する。

(注) J K A: 自転車・小型自動車公営競技を振興する公益法人、売上の一部を機械振興と公益 事業振興に補助している。

#### ① 委員会、会議等による事業統括・管理

事業推進委員会、コーディネータ会議、プロデューサ会議を開催し事業の方向性、事業の推 進状況等の事業全体を統括、管理し企業のニーズに適切に対応する。

委員会・会議名	開催日	内容
	6 日 17 日	2019 年度機械工業振興チャレンジ研究調査の審査
市世世生禾三〇	6月17日	2017年度 JKA 補助事業自己評価 II 審議
事業推進委員会 	2月19日	2019 年度 JKA 補助事業自己評価 I 審議
	27191	2020 年度 JKA 補助事業の概要説明
		九州産業技術センターの概要
	5月20日	2018年度活動実績、2019年度活動目標
		コーディネータ活動について 他
	7月22日	2019 年度コーディネータ活動実施状況
		新コーディネータ活動情報管理システム説明 他
コーディネータ会議	9月 3日	2019 年度コーディネータ活動実施状況
		新コーディネータ活動情報管理システム補足説明 他
	11 🛭 21 🖂	2019 年度コーディネータ活動実施状況
	11月21日	九州オープンイノベーションセンター概要説明 他
	2 日 11 日	2019 年度コーディネータ活動実施状況
	3月11日	2020年度JKA補助事業概要について
	F ⊟ 20 □	コーディネータ会議と同時開催
┛⊓ᢇ <u></u>	5月20日	事業プロデューサ活動について 他
プロデューサ会議 	2 日 11 口	コーディネータ会議と同時開催
	3月11日	2020年度JKA補助事業概要について

# ②コーディネータ・プロデューサによる企業支援

企業の二ーズ調査から事業化まで、一貫して支援体制を構築するとともに、事業実施プロセスの「見える化、共有化及び協働化」の仕組みを導入し、支援機関等並びに成功報酬型コーディネータと連携し効率的な支援を推進する。

# a. コーディネータ活動(技術ニーズの発掘、シーズ(コア技術)とのマッチング、ブラッシュアップ研究会)

ニーズ調査 (コア技術調査)	(二一ズ有) (調査の内数)	マッチング	活動件数計	ブラッシュアップ 研究会発足数
101	(31)	37	138	23

目標活動件数:150件、ブラッシュアップ研究会:25件

# b. 機械工業振興チャレンジ研究調査(公募)

大学・公設試・企業等に対して公募を行い12件の応募があった。事業推進委員会の審議 を経て5件を採択した。

案件毎の研究会を開催し、技術的課題を検討し、市場動向の分析等を行った結果、5件のうち3件はA-Step等やNEDO公募型案件に申請する予定、残り2件は継続して研究を続ける予定である。

うち研究題目	参加機関・企業	成果
ヒト培養細胞におけるサーチェ インをターゲットとした天然ヒ ト型セラミドのアンチエイジン グ効果の検証	九州大学 福岡県醤油醸造協同組合 株式会社ジェヌイン R&D	A-Step 等補助金申請
奄美島豚の生産性向上のための 可食性輸送ストレス軽減治療器 材の開発	鹿児島大学 株式会社サナス	A-Step 等補助金申請
溶射法を用いて作製した熱電変 換モジュールの実用化に向けた 性能向上	株式会社フジコー 九州大学 九州工業大学	NEDO の公募型案件提案
リモナイトによる高付加養殖魚 の育成	鹿児島大学 株式会社日本リモナイト	次年度継続研究
海藻の新規乳酸発酵技術を応用 した佐賀海苔由来乳酸発酵食品 の健康機能性の明示、及び産業 的製造プロセスの確立	株式会社オフィスタカハシ SW 海藻研究所 佐賀県工業技術センター	追加研究、県等補助金申請

# C. セミナー・ニーズ説明会

九州域内の実用化・事業化の促進のためセミナー及び大手企業が保有するニーズを公開する発表会を開催し、マッチングの促進をするとともにフォローアップを図る。

開催日	内容	参加・進捗状況
	台湾環境ビジネスセミナーの開催	
0 H 20 H	(K-RIP と共催)	54名 参加
8月30日	基調講演、連携事例発表(3社)	アンケート満足度:86点
	海外展開支援施策説明	
	大手企業ニーズ説明会(大阪ガス)開催	3 2 機関、4 5 名参加
	(KICC と共催)	6機関より9件の提案があり
9月 3日	ビジネスマッチングを促進する説明会実施	6 件につき 11 月 19 日一次面談
		実施 (3件は書類不採用)
		うち1件は共同研究実施中

# (2)地域中核企業・中小企業等連携支援事業

【国の補助・委託事業】 198,257 千円

地域中核企業(地域経済の活性化・地域を牽引する企業)の更なる成長を実現するため、事業化戦略の立案・市場獲得等の取組みを支援する。

#### ① 戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)

(142,561 千円)

精密加工技術・リサイクル等の産業技術分野に加え、医療分野や環境・エネルギー分野等の 戦略分野を対象に、基盤技術の開発と IoT やビッグデータ等のツール利用した付加価値を創 出する研究開発プロジェクトを支援することにより、九州のイノベーションを創出する。

本年度は2件の新規案件と4件の継続案件の事業化に向けて、事業管理機関として経産省から受託を受け、企業・大学・研究機関等と連携した効率的な事業運営を行った。

基盤技 術分野	件名	再委託・補助先	成果
精密加工	消化器内視鏡手術における早期 がんを切除するための切断性能 が高く、高レスポンスの動力伝達 性能を有する高周波を使わない はさみの開発 【平成 29 年度~令和元年度】	(株)ファインテック ロボフューチャー(株) 長崎大学	試作検証で最適化し微細剪刃と 駆動装置を作成後に組込み、応答 性と切断性能に問題ないことを 確認した。川下企業が製品評価実 施。
精密加工	タブレット逐次鍛造法を用いた 低価格な防水型USBType - Cコネクターと振り子ダイス 式逐次鍛造成形機の開発 【平成29年度~令和元年度】	(株)東郷 九州工業大学 鹿児島県工業技術 センター	逐次鍛造成形機による鍛造加工 はほぼ目標をクリアし、量産化の 目途が立った。また、工程設計・ 金型設計支援システムも実装し、 評価・改良を実施中

情報処理	配線方法で機能が変わる「マスター回路」と「ミニマルファブ」を組み合わせた多品種適量半導体の短納期、低コスト製造を実現する、新しい半導体製造技術の開発 【平成30年度~令和2年度】	(株)ロジック・リサーチ (国研)産業技術総合 研究所九州センター	マスクレス露光装置による露光 工程開発に遅れが生じているものの、配線工程の開発を前倒しで 今年度実施することにより、全体的な工程はほぼ計画通り進捗
測 定 計 測	高齢化社会における生活習慣病の早期発見のため、老化赤血球のスクリーニング及び非老化赤血球の変形能が測定可能な2ステップ・フィルトレーション法による自動測定装置の開発 【平成30年度~令和2年度】	(株)レオロジー機能 食品研究所 九州大学 (株)パラマテック 医療法人社団ブックス	自動測定装置は開発完了し、今後 は医学的臨床データとの整合性 を検討していく予定
材料製造プロセ	低コスト化・難燃化ニーズに応えるため、表面改質技術とテンション制御技術を活用した樹脂製亀甲網の開発 【令和元年度~令和3年度】	粕谷製網(株) 東レ・モノフィラメント (株) 長崎大学 長﨑工業技術センター	難燃性ポリエステルモノフィラ メントの試作品を評価中 AI システムハード導入し、基 礎機能を検討している
バイオ	日本発の機能性表示食品制度に 適合した高機能性プラセンタエ キスの開発 【令和元年度~令和3年度】	佳秀工業(株) 九州工業大学 福岡県工業技術センタ ー	マイクロ波減圧発泡乾燥機の導 入を完了した。 プレ臨床試験を完了した。 プラセンタの有効成分単離を継 続実施中

# ② 航空機部品分野 (8,786 千円)

航空機の部品製造において、技術・品質・コスト・納期等の管理能力を有する多工程一貫受注可能な生産体制の構築に向け、地域中核企業を中心としたサプライチェーンを整備し、生産技術強化のための専門家の指導及び販路開拓に向けた川下企業へのビジネスマッチングの活動を実施した。

#### a 国際認証取得の推進と人材育成

多工程一貫の受注を請けるため、受注から納品までの過程で必要となる管理能力、生産体制 の高度化に向け、社外コンサルによる指導を実施した。

実施期間	名 称	内 容	実績
11月20日	NADCAP 認証取得に向けたセミ ナー	航空機産業における特殊工程 作業に対する国際的認証制度 取得のための解説	1回
1月	内部監査員養成セミナー	JISQ9100:2016の内容と、 監査に必要な知識の解説	2日×3回 (10名)

	航空機産業に求められる品質		
12日。2日	品質管理等能力高度化セミナー	の確保と生産管理面からのコ	2日×3回
12 H~2 H	<b>加貝官理寺能刀向及化セミナー</b>	ストダウンと納期確保(QDC)	(10名)
		について解説	

#### b 生産能力向上に向けた指導

航空機部品の製造は高い技術力が要求されるため、専門家による指導を受けながら部品加工 に係る実践的なトレーニングを実施した。またPMによる指導等を実施した。

実 施 期 間	内容	実 績
9月~2月	生産能力の高度化に向けた加工トライアル	4 企業

#### c 展示会出展等機会による海外航空機メーカーへの販路開拓

実 施 日	名	称	内	容	成	果
08240.08260	<b>T</b> 707		航空宇宙分野	予の国際ビジ	商談	件数
9月24日~9月26日	エアロマー	- 下石口座	ネス商談会参	<b>ከ</b> በ	24	件
			航空機メーカ	コーやエンジ		
28448 28468	~ <b>~ +* +</b> * +	T7\-	ンメーカー、	大手部品メー	現地	企業
2月11日~2月16日	シンガポール 	<b>ル</b> エアンヨー	カーなど 1,0	00 社が出展。	2 社	訪問
			国際ビジネス	商談会参加		

#### ③ オープンイノベーション・ソリューション・サイトの運営・管理

(1,103 千円)

【自主事業】

区 分	件 数(九州サイト)	件 数(リンカーズ)
ニーズ登録	7	1 91
シーズ提案	45	_
マッチング	1	1

当サイトは平成 24 年から大阪産振機構と連携して運用してきたが、平成 31 年 3 月で大阪 産振機構が運用を終了したため、平成 31 年 (令和元年)より当センター単独で新たに運用を 開始した。また、リンカーズと連携を行い、九州域外のニーズ情報を提供した。

# ④ 環境・エネルギー分野

(26,016 千円)

九州の環境・エネルギー産業の振興を図る九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP)の 事務局として、最新の企業情報等の提供、異業種との交流、展示会出展、商談会及び太陽光 発電 3 R を始めとする循環経済関連産業に関する産官研究会を開催し、会員企業の 3 R 市場 の拡大に関する支援を行った。

また、水質浄化やリサイクル関連企業の海外市場への拡大を図るため、台湾・ASEAN の関係機関との商談会やセミナー等を開催した。

#### a. 情報発信の強化

環境・エネルギー分野の最新動向、国の政策等や新商品・サービス開発等の情報を、ホームページやメールマガジンを活用し提供した。

異業種との連携・ネットワーク形成を目的とした、K-RIP 会員によるプレゼンや最新の環境エネルギー分野の動向等の情報提供を行うエコ塾を開催した。

内 容	回 数
ホームページを活用した情報発信	27
メルマガ配信(K-RIP会員限定、一般向け)	73
工二塾(福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県、合計8回開催)	参加者延べ 520 名

# **b.** 九州の環境産業が地域経済を牽引する「サーキュラーエコノミーアイランド九州」プロジェクト

#### サーキュラーエコノミーセミナー、ファインバブル研究会

サーキュラーエコノミーに関する動向等、取り組み事例等のセミナーを開催した。

また、「食品残渣対策」、「プラスチック循環等」について、中核企業群、協力企業群による新事業創出のための実態調査、産学連携体制の構築を目的とした研究会を開催した。

また、ファインバブルの装置メーカーの集積している九州のポテンシャルを活かし、技術 開発等を通じた新市場や用途の開拓を目的として、九州内外の産官30機関で構成するファ インバブル研究会を支援した。

ファインバブル関連企業の新規取引先やビジネスパートナー発掘、売上拡大また、自社製品・サービスの市場評価の見定め等を行い、今後のビジネス展開を図る目的で、大型環境展示会への参加の支援を行った。

開催日	場所	セミナー名称	参加者
10月10日	北九州市	サーキュラーエコノミーセミナー	56名
1月24日	福岡市	サーキュラーエコノミー研究会	企業・団体
7月4日			装置メーカー
12月26日	福岡市	ファインバブル研究会	企業・団体、
3月19日			行政・自治体
1月29~31日	東京	Inter Aqua 2020	6 社参加、商談 34 件

#### c. 循環経済関連産業振興事業

(売れるリサイクル品・リユースシステム等のバリューチェーン構築)

#### ·太陽光発電 3R事業研究会

太陽光発電の出力制御開始後の潜在的中古市場の拡大状況をアンケートにより把握する とともに 3R事業としての0&Mビジネスと中古市場の拡大に関する支援を目的とした太陽 光 3R事業研究会を開催した。

また、太陽光発電システムを長期安定電源として適正に運用するためのO&Mや事業性評価に関する九州内外の取り組み紹介と課題である雑草対策ならびにこれらを通じてO&Mビジネスにおける新たな企業発掘を目的とした太陽光発電産業の将来展望を考えるセミナーを開催した。

開催日	場所	名 称	参加者
10月18日		太陽光発電 3 R 事業研究会	メンテナンス企業・団体
12月25日	福岡	* 2/13 は研究会後に「太陽光発電産 業の将来展望メンテナンスと事業性評価	行政・自治体
2月13日		たけ-」も実施。	* 2/13 研究会参加者 73 名

#### ・環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー(環境 AMS)

新事業創出が期待できる各地域のニーズとシーズの情報収集のみならず、セミナー運営協議会各構成メンバーが連携を図りながら、地域枠を超えた多様なアライアンスマッチングを実施した。

開催日	場所	セミナー・出展	企業数(会員数)	成果等
10月10日	北九州	環境 AMS in 九州	4 社(0 社)	商談 10 件(他地域企業)
11月21日	沖 縄	環境 AMS in 沖縄	5 社(1 社)	商談 2 件(会員企業)

#### d. 海外展開の支援

#### ・台湾環境・エネルギー産業交流事業

台湾の情勢をふまえ、参加企業等のニーズを把握した上で、台湾の業界団体・企業とのマッチングや交流を行い、業務提携等の具体的なビジネスの創出に努めた。なお、九州企業の台湾での事業展開を促進し、台湾との貿易・投資の拡大を図るため、本事業の一部は、日本台湾交流協会及び貿易・産業協力振興財団(ITIC)の助成金により実施した。

#### ・ベトナムミッション派遣事業

近年、九州企業の関心の高いベトナムとの交流や個別マッチングを行い、具体的なビジネスの創出に努めた。現地政府・企業等との環境プロジェクト組成に係る官民協議や、現地二 -ズ把握のための情報収集等を実施した。

#### ・インドネシアミッション派遣事業

インドネシアとの交流や個別マッチングに加え、セミナー・商談会の開催を行った。現地 政府・企業等との環境プロジェクト組成に係る官民協議や、現地ニーズ把握のための情報収 集等を実施し、今後の展開の可能性を調査した。

	7 10 1 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	
実施日	内容/参加企業・団体等	成果等
8月30日	台湾セミナー	セミナー参加者 54 名
9月23日~	台湾ミッション派遣*(事前協議)	商談件数 27 件
9月28日	/日本企業7社	機密保持契約1件
11月25日~	台湾ミッション派遣*(本派遣)	商談件数 41 件
11月31日	/日本企業7社	業務提携1件
2月10日~	ベトナムミッション派遣	<b>卒</b> :火/比米5.1.4 //比
2月14日	/日本企業 5 社派遣	商談件数 14 件
2月24日~	インドネシアミッション派遣	会談外数2mが
2月28日	/日本企業 5 社派遣	商談件数 25 件

#### ⑤ 医療機器関連・ヘルスケアサービス分野

(20,894千円)

九州ヘルスケア産業推進協議会(HAMIQ)の事務局として、九州の半導体や自動車産業で蓄積した精密加工技術等を活用した医療機器分野への参入、医療・介護機関とサービス事業者のコラボレーション、医用機器メーカーの販路開拓、海外事業展開を支援、AI や IoT 技術の医療分野での活用・サービスに係るヘルスケアの需要の創出等を目的に専門家を配置し支援した。

#### (医療機器分野)

# a. 地域中核企業に対する支援

地域中核企業 2 社の展示会出展、1 社のコンサルタント支援等を通じ、販路開拓、製品開発を支援した。

実施期間	支援企業	内 容
		製品紹介パンフレット・ビデオ作成、内視鏡外科学
6月~3月	㈱トライテック	会への出展を通じ開発機器の周知や販路開拓を支援
		した。
C E . 2 E		チラシ・ビデオ作成、Care_TEX2020 国際介護用品
6月~3月	三和二ユーテック㈱) 	展への出展を通じ販路開拓を支援した。
6月~3月	(株)スリーダイン	コンサルタント支援等を通じ製品開発を支援した。

#### b. 医療機器販売事業者とのマッチング事業

地域中核企業の医療機器分野への進出を促進するため、福岡県、大分県の企業等と首都圏等の医療機器販売事業者とのビジネスマッチング会及びニーズ探索会を開催した。

実施日	場所	名 称	内 容	参加者	面談数
7月3~4日	大分市	ビジネスマッチン	医療機器開発のシーズを有する福岡、大分県	20 社	25 件
10月23日	飯塚市	グ会開催	等の企業と首都圏の医療機器製造販売会社とマッチングを実施	12 社	21 件
8月30日	別府市	ープで表示法へ	大分大学医学附属病院、別府リハビリテーションセンターの臨床	5 社	6件
11月27日	大分市	ニーズ探索交流会	現場のニーズ発表及び 医療従事者と企業の相 談会を実施	4 社	5件

# c. 中核企業と医療学会等とのマッチング

日本内視鏡外科学会等の学会や Medtec Japan 2020 などの大規模展示会に中核企業等が参加し、交流やマッチング事業を行った。

開催日	名 称	会 場	出展支援社数、来訪者数
9月25日~27日	国際福祉機器展	東京ビックサイト	9 社、500 名
12月5日~7日	日本内視鏡外科学会	パシフィコ横浜	1 社、210 名
2月12日~14日	Care_TEX2020 国際介護用品展	東京ビックサイト	1 社、104 名
(延期)	Medtec Japan2020	東京ビックサイト	2 社、200 名予定

# d. 九州各県のコーディネータに対する支援と連携強化

九州各県のコーディネータが一堂に会する九州地域医療機器産業等支援グループ会合を 月1回開催し、九州各県のコーディネータのスキルアップを支援するとともに連携強化を図った。

	開催日	会 場	内 容
第1回	7月24日		各専門家の活動内容の紹介等
第2回	8月26日		医療分野への参入・医工マッチング
第3回	9月30日	   も.心卒光は作ら、 ク	薬事・知財戦略
第4回	10月17日	九州産業技術センター 	福祉用具ビジネス
第5回	11月13日		大手企業・販売会社等との連携
第6回	12月6日		部素材・試作品、医療用雑品のビジネス
第7回	1月14日	JR博多シティ	地域連携会議、地域連携セミナー
第8回	2月19日	九州産業技術センター	年間の活動総括

#### (ヘルスケアサービス分野)

#### a. ヘルスケア産業セミナー2019

我が国のヘルスケア機器やサービスの最新動向の提供及び九州のヘルスケアの先導的な 取り組みを通じ新規参入や新製品・サービスの創出を支援した。

開催日	開催地	名 称	内 容
			経済産業省ヘルスケアサービス産業課長
			によるヘルスケア産業の今後の展開をテ
		ヘルスケア産業セミナー	ーマとした講演及び第6回ヘルスケア産
6月17日	福岡市	2019	業づくり貢献大賞授賞者のプレゼンテー
			ションを実施
			九州内外の企業・大学・産業支援機関・
			行政から98名が参加

# b. 鹿児島市ヘルスケアビジネス創出支援プログラム 2019 支援

鹿児島市主催のヘルスケア関連ビジネスの創出を目的とした事業化支援事業に参加し、事業化プログラムの支援やビジネスプランの審査等を行った。

開催日	名 称	内 容
8月23日	鹿児島市ヘルスケア	鹿児島市主催のヘルスケアビジネスの事業案創発の為のグループワーク等の支援を行った。 (ヘルスケアニーズの探訪・深堀)
10月21日	ビジネス創出支援 プログラム 2019	事業案(7件)の発表会における選考審査実施 (ビジネスプランの審査)
2月5日		個別対面による事業案のブラッシュアップとそのビジネスモデル構築の支援 (事業化支援)

#### C. ヘルスケアサービスの事例等の情報発信

先進的なヘルスケアビジネス等の事例紹介・PR を行った。

発行日	名 称	内 容	発 行
12月27日	九州ヘルスケア最前線 HealthcareNEXT Vol.6	対談:(株)N Lab、(株)ワイズリーディング 企業紹介:キリシマ精工(株)、(株)ジウン (株)赤ちゃんの城 建康経営:(株)新生堂薬局	1,000 部
2月28日	九州ヘルスケア最前線 HealthcareNEXT Vol.7	対談:歯っぴー㈱、福岡歯科大学 企業紹介:㈱オプティム、龍宮㈱ ひびきの電子㈱ 建康経営:㈱明和製作所	1,000 部

# d. Healthcare Innovation Challenge 2020 及びヘルスケアサービス成果発表・交流会事業

少子高齢化の課題に積極的に取り組むアイデアと起業家精神を持つベンチャー企業を発掘するために、InnoHub(Healthcare Innovation Hub)と共催でセミナーを予定していたが、感染症対策のため中止した。

また、全国のヘルスケア推進協議会の活動状況やヘルスケア関連の先導的な新ビジネスの 事業化の取り組みや支援機関の活動を紹介するイベントも感染症対策のため中止した。

開催日	開催地	名 称	内 容	参加者
3月6日 (中止)	福岡市	Healthcare Innovation Challenge 2020	基調講演: ㈱Cure APP 講演: 経産省 ヘルスケア産業課 プレゼン: ㈱OKEIOS、AMI㈱ Connected Industries㈱ パネルディスカッション モデレーター: 日経 BP 編集長河合氏	150 名

			・各地域でのヘルスケアサービス先		
3月13日	<b>垣田士</b>	九州ヘルスケア産業	進事例の紹介    ・健康寿命延伸新規プロジェクトの	200名	
(中止)	福岡市	最前線2020	成果発表(西日本新聞社、芙蓉開発、	予定	
			南風病院)		

# e. 地域共生・ヘルスケア産業活用セミナー

地域共生社会の実現に向けたヘルスケアサービスの活用を目指して九州厚生局との共催で先進的なヘルスケアサービスの取り組み紹介と自治体関係者との交流を目的に開催した。

開催日	開催地	名 称	内 容	参加者
10月25日	福岡市	九州「地域共生・ヘルスケ ア産業活用セミナー」 (令和元年度第 4 回九州厚 生局地域共生セミナー)	基調講演:㈱True Balance 事例紹介:㈱ワーコン、㈱ウェルモ	40名
1月24日 鹿児島市		九州「地域共生・ヘルスケア産業活用セミナー」 (令和元年度第7回九州厚生局地域共生セミナー)	基調講演:㈱熊本健康支援研究所 事例紹介:南風病院、AMI㈱	65名

# f. 地域中核企業創出·支援

ヘルスケアサービス分野への参入や新事業展開に対する技術的かつ戦略や経営面でのアドバイス等による事業化を支援するプロジェクトマネジャー(専門家)を配置し、3 社の活動を支援した。

実施期間	支援企業	内 容	
2月~3月	正興ITソリューション(株) (福岡市)	スマホアプリを活用し歩行速度を測定することで軽度 認知症患者を早期発見する実証実験。 実証フィールドは南風堯イン(鹿児島)、被験者 30 名	
2月	㈱くまもと健康支援研 究所(熊本市)	Web 遠隔面接システムと専門スタッフによる特定保健 指導支援サービス「ヘルスアップコーチ」のセミナーを 開催、定員 50 名	
1月~3月	AMI㈱ (水俣市)	・遠隔医療におけるこれからの予防医療セミナー開催 (1月21日、参加者41名、鹿児島市開催) ・独自開発の超聴診器とビデオチャットシステムを使っ た遠隔での検診サービス「クラウド検診」の自治体関 係者への説明会(奄美大島 瀬戸内町)	

【自主事業】

# (1) 地域技術交流事業

#### ① 九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長会議

九州・沖縄地域の国立大学法人と産業界等との研究業務の円滑な遂行を図ることを目的に、 関連法人と当財団がネットワークの構築を形成し、産学官連携に関する現状と課題、協力体制 等について意見交換を行う。

開催日	場所	内 容
		・産学官連携活動について(「共同研究講座」、「組織対組織」、「大学
12月11日	北九州市	地域コンソーシアム」、「大学発ベンチャーに対する支援体制」)
		・産学官連携活動の財政的自立とURAを含めた支援体制 他

# 3. 振興支援事業

5,341 千円

【自主事業】

# (1)支援事業

#### ① 九州オープンイノベーションセンター構想研究会

(2,651 千円)

九州の将来像を見据え、九州経済社会の課題をオープンイノベーションで解決する産業支援機関として、九州産業技術センターと九州地域産業活性化センターを発展的に統合する九州オープンイノベーションセンターの役割・機能・組織のあり方を研究会で提言し、関係者の理解を得た。

新センターの機能等を踏まえたホームページやパンフレット等のリニューアルを行った。

回数	開催日	内容
第1回	平成30年11月8日	オープンイノベーション現状と課題
第2回	平成31年2月20日	第1回の課題等を踏まえた オープンイノベーションの支援機関のあり方検討
第3回 平成31年4月26日		九州オープンイノベーションセンターの機能、事業内容の 検討、取りまとめ

#### ② 九州イノベーション創出戦略会議(KICC)

(2,406 千円)

九州イノベーション創出戦略会議の事務局として、企業の技術課題解決に資する活動及び、ビジネスモデル構築を支援し、地域発のイノベーション創出の加速化を図った。

J K A コーディネータによるニーズ・シーズの調査及び他の産業支援機関等と連携を行い提案 するシーズの発掘を行うとともに九州外の大手企業等の具体的なニーズを発掘し、サイトに掲載を行った。

#### a. 通常総会・特別講演会の開催

期日	内 容	参加者
	通常総会	
7月29日	平成 30 年度事業実績報告	5 9名
	令和元年度事業計画(案)、役員等の選任(案)を審議	

	特別講演 1 「福井オープンイノベーション推進機構の取り組みと研究開発事例」 福井県産業労働部副部長兼福井県工業センター所長 山本 雅巳氏	
7 [] 20 []	特別講演 2 「福岡地域戦略推進協議会 (FDC) におけるオープンイノベーションの	
7月29日	実践例(取り組み)について」 福岡地域戦略推進協議会 事務局次長 前田 真氏	104名
	成功報酬型コーディネータ事業事例紹介	
	九州産業技術センター	
	成清 四男美常務理事、辻 勇樹 CDR、正清 善隆 CDR	

# b. 各機関とネットワークの構築と連携等支援

件名	内 容	実 施 日
コーディネータプロフィ	昨年度作成したプロフィール集(冊子)の更新を行	令和2年3月
ール集の掲載	い、KICCホームページへ掲載した。	77412年3月
KICC 構成機関との連携	KICC の構成機関が保有しているシーズ情報 (研究成	
強化	果、特許情報等)を KICC 会員が容易に情報収集でき	令和2年3月
3376	る様、KICC ホームページとリンクした。	
   試験研究機器等情報更新	最新のデータに追加、更新し利用の周知、活用に努	令和2年3月
10月10月10日   10月10日   10月10日	めた。	力和2年3万
   九州・沖縄オープンイノ	国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター	
バーションデー参画	の最新の技術開発等情報の提供、情報交換及び、研	令和元年
	究成果の民間企業への橋渡しに繋げるための交流の	9月26日
(鳥栖) 	場として開催されるオープンデーに参画した。	

c. 技術相談 (53 千円)

企業の様々な技術課題に対し、九州イノベーション創出戦略会議ネットワークと産総研九州 センター福岡サイトの協力を得て技術相談や企業紹介を行った。

<b>主</b> 25.古宓	・パイプ内の検査ロボット開発				
主な内容	・竹素材のセルロースナノファイバーの製品化、事業化 他36件				

# ③ 他機関との連携

a. その他支援事業 (231 千円)

九州ファインセラミッ	K F Cの事務局としてスムーズな運営に努めた	
ク・テクノフォーラム	K F C総会、講演会の開催(当センター)	8月30日
(KFC)	KFCセミナーの開催(当センター)	11月19日

【自主事業】

九州の産業技術の振興を図るため、大学・工業高等専門学校の工学系の若手研究者の長期・短期留学及び国際研究集会参加に対し、外部委員で構成する選考委員会で選考の結果、4件の助成を実施した。

-	<u>₹</u>	研究件名	留学先	留学期間等
国外	長期	重イオン照射に誘起された欠陥構造のマルチローブ解析 九州大学大学院 工学研究院 航空宇宙工学部門	フランス原子カ庁 (CEA) (フランス)	2019. 8.19 ~ 2020. 8.18 (12 か月)
留学	短期	遮蔽性が高く蓄熱材を高含有したカプセル作成法の開発 開発 鹿児島大学 工学部 環境化学プロセス工学科	グリフィス大学 (オーストラリア)	2019. 4.1 〜 2019.9.30 (6 か月)
国際研	ž	雷インパルス電圧による半導電性 PET フィルム表面の放電現象の観測 福岡大学大学院 工学研究科 電気工学専攻	ブダペスト (ハンガリー)	2019.8.25 ~ 2019.8.31 (7日間)
究集会		超微細孔式ナノバブル発生装置を用いた窒素ウルトラファインバブル付加純水の雷インパルス破壊特性 福岡大学大学院 工学研究科 電気工学専攻	リッチランド (アメリカ)	2019.10.19 ~ 2019.10.25 (7日間)

# 5. 情報収集及び提供事業

2,319 千円

【自主事業】

#### (1)技術情報誌(KITEC INFORMATION)の発行

技術情報誌である「KITEC INFORMATION」を年4回発行し、情報提供を実施した。

・支援企業の紹介 ・国の最新施策の広報 ・センター事業の紹介、案内、報告、募集 等

# (2) ホームページによる情報の提供 (HP 更新: 31回、メルマガ配信: 23回)

会員企業など地域の研究開発型中堅・中小企業との双方向コミュニケーションを図るため メールマガジンを定期発行し、ホームページへの閲覧を促した。

・センター概要 ・産業技術振興支援 ・人材育成助成事業 ・募集、案内、トピックス 等

# 6. 収益事業

収入 2,586 千円

# (1)成功報酬型コーディネータ事業

(収入 2,446 千円)

コーディネータが企業に出向き、課題を抽出し、課題を解決するための事業計画の策定から販

路開拓まで伴走型で継続的に支援する成功報酬型のコーディネート事業として、平成 27 年度から開始し平成 30 年度に制度の見直しを行った。

# ① 活動実績

区分	平成 30 年度	令和元年度	内 容
新規企業発掘	2 3	58	優位な技術を有し、新製品開発・市場開拓 を目指す中小企業の調査・発掘等
契約前プレ支援事業	2 2	69	要素技術・コア技術の発掘 事業化の課題等の抽出と解決方法等の提示 知財の有効活用等の提示等
契約後支援事業	1 2 8	1 53	事業化計画の検討 知財活用先、試作先、共同開発相手、販売 先等の探索と交渉 成功報酬契約項目の実践等
合計	173	280	

	平成 30 年度	令和元年度
成功報酬額(千円)	4,076	2,446

# ② 成功報酬型の契約と報酬実績

# a.令和元年度契約分 6件 (新規契約案件)

企 業	支援事業	支援内容	成功報酬(一部)	
A 社	鮮度保持技術の事業化支援	・新規取引開拓	・利益の 10%	
A ↑⊥			・業務提携等取引金額の 20%	
B 社	光治療技術の事業化支援	・特許等の有償譲渡	・有償譲渡金の 15%他	
DTL		・契約企業発掘等	・契約企業提供金の 5%	
C社	微生物技術の事業化支援	・販売、提携先開拓	・契約金の 20%	
CAL			・ロイヤリティーの 5%	
D社	蛍光色素技術の事業化支援	・共同開発企業発掘	・開発契約金の 20%	
D∱L		・販売、営業支援	・売上の 5%	
E 社	マーケティング戦略支援	•市場調査商品企画	・10 万円/月	
		等支援		
F社	ハカリ技術の事業化支援	・事業化マネジメント	・10 万円/月	

# b. 平成27~30年度契約分 9件 (継続契約案件)

企 業	支援事業	支援内容	成功報酬
G社	ア応門交口の医療機門会 1	・機器認証許可	・許認可取得時 30 万円
GAL	石灰開発品の医療機器参入 	・製品販売	・当該製品の利益の 10%

H社	壁面調査用ロボットの開発支援	<ul><li>・試作品の開発</li><li>・特許等の知財対応</li><li>・量産体制の構築</li><li>・製品販売</li></ul>	<ul><li>・試作品完成時 50 万円</li><li>・特許登録時 5 万円/件</li><li>・量産ライン完成時 50 万円</li><li>・当該製品の利益の 20%</li></ul>
I社	グラファイト素材の利活用 支援	・切削屑のリサイクル化 ・知財戦略立案 ・販路開拓 ・新規製品	<ul><li>・リサイクル化達成時 50 万円</li><li>・特許登録時 5 万円/件</li><li>・当該製品の利益の 20%</li></ul>
〕社	マイクロカプセル技術の事業化支援	・原価計算 ・製造技術管理 ・知財戦略立案	<ul><li>・試作事業に関わる売上の 20%</li><li>・当該事業のロイヤリティーの 20%</li></ul>
K社	新規事業に係る支援 医療機器の販売支援	<ul><li>・開発コンサル</li><li>・顧客開拓</li></ul>	・開発コンサル料 50 万円/年 ・当該製品のロイヤリティーの 10%
L社	当該製品の販路に係る支援事業譲渡に係る支援	・用途開発支援 ・販路拡大支援 ・事業譲渡支援 ・知財戦略支援	・当該事業、製品のロイヤリティーの 20% ・譲渡 (事業、設備) 金の 20%
M社	知財戦略 ・知財戦略   新規事業化支援 実行		・10 万円/月
N社	特許の譲渡支援	・特許譲渡支援	・有償譲渡金の 20% ・ロイヤリティーの 25%
O社	特許の譲渡支援	・特許譲渡支援	・有償譲渡金の 20% ・ロイヤリティーの 25%

# (2) 産業技術振興支援(事業化支援)

# (収入 140 千円)

当財団の非常勤コーディネータ(事業化プロデューサ)と協働して、九州の研究開発型企業を訪問して、技術課題や事業化等の経営課題を発掘し、2 社を有償で継続的にコンサルティング等を行う有償支援事業を実施した。

	平成 30 年度	令和元年度
報酬額(千円)	5 9 7	1 4 0

支援企業	内 容
P社	・ビジネスモデルの検討 ・マーケティング戦略の立案及び販売促進等事業化支援
Q社	<ul><li>・試作品及び新製品を市場化していくために抱えている技術開発</li><li>・事業化などの経営課題を解決するため、コンサルティング業務を行う。</li></ul>

#### Ⅱ 役員会等に関する事項

#### 1 理事会

o 第1回理事会〔令和元年6月3日〕

 ・決議事項: 平成30年度事業報告書、決算報告書、公益目的支出計画実施報告書、 「資産運用規程」の見直し、令和元年度第1回評議員会の決議の省略及び 決議事項、定時評議員会の招集、顧問交代に伴う選任、技術企画委員交代 に伴う選任

・報告事項 : (一財) 九州地域産業活性化センターとの合併の進捗状況、臨時理事会・臨時評議員会の招集、平成 30 年度資産運用実績報告、2019 年度自転車等機械工業振興事業に関する補助金交付決定内容、職務執行状況報告

o 第2回理事会〔令和元年8月8日〕(決議の省略)

・決議事項 : 評議員1名の選任

o 第3回理事会〔令和元年9月3日〕

・決議事項 : 合併契約書の締結(案)、合併に伴う定款の変更(案)、合併に伴う重要な規程の改正等(案)、令和元年度第4回評議員会の開催

・報告事項:九州オープンイノベーションセンターの役員(理事・監事)、評議員等(案)、九州オープンイノ ^゙ーションセンターの事業計画(案)、事業予算(案)、今後の手続き

o 第4回理事会〔令和2年1月31日〕(決議の省略)

・決議事項: 技術企画委員1名の選任、令和元年度第5回評議員会の書面決議、令和元年度第5回評議員会の決議事項、令和元年度第6回評議員会の日時、場所及び議題

o 第5回理事会〔令和2年3月17日〕

・決議事項: 令和2年度事業計画、予算、合併に伴う顧問の退任(3/31)及び顧問、参与の選任(4/1)

・報告事項: 令和元年度事業の経過、決算見通し、令和元年度第6回評議員会の開催、合併に伴う理事・監事、評議員の退任(3/31)及び選任(4/1) 九州オープ・ンイノハ・ーションセンターのロコ、、今後の合併関連スケシ・ユール、合併に伴う常勤役員の退職金の取り扱い、職務執行状況報告

#### 2 評議員会

o 第1回評議員会〔令和元年6月11日〕(決議の省略)

・決議事項 : 評議員1名の選任

o 定時評議員会〔令和元年6月28日〕

·決議事項 : 平成 30 年度決算報告書

・報告事項 : 平成 30 年度事業報告書、公益目的支出計画実施報告書、九州地域産業活

性化センターとの合併の進捗状況、臨時理事会・臨時評議員会の招集

o 第3回評議員会〔令和元年8月22日〕

・決議事項 : 評議員1名の選任

o 第4回評議員会〔令和元年10月4日〕

・決議事項 : 合併契約書の締結の承認、合併に伴う定款の変更(案)、合併に伴う重要な

規程の改正等(案)

・報告事項 : 九州オープンイノベーションセンターの役員(理事・監事)、評議員等(案)、九州オープンイノ ^゙ーションセンターの事業計画(案)、事業予算(案)の概要、今後の手続き

o 第5回評議員会〔令和2年2月10日〕(決議の省略)

・決議事項 : 理事1名の選任

o 第6回評議員会〔令和2年3月19日〕

・決議事項: 令和2年度事業計画、予算、合併に伴う理事・監事、評議員の退任(3/31) 及び選任(4/1)、合併に伴う常勤役員の退職金の取り扱い

・報告事項: 令和元年度事業の経過、決算見通し、合併に伴う顧問の退任(3/31)及び顧問、参与の選任(4/1)、九州オープ ンイノハ ーションセンターのロゴ、今後の合併関連スケシ コール

- 3 技術企画委員会〔令和元年3月7日〕
  - · 令和元年度事業実施状況、令和 2 年度事業計画

#### Ⅲ 当財団の概況(令和2年3月末現在)

1 設立年月日

昭和60年6月14日財団法人設立平成24年4月1日一般財団法人移行

2 定款に定める目的

この法人は、九州地域において、産業技術の普及、啓発等に関する諸事業を総合的かつ効率的に推進することにより、九州地域における産業技術の振興を図り、もって我が国経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

- 3 定款に定める事業内容
  - (1) 産業技術に関する情報の収集及び提供
  - (2) 産業技術の振興に関する支援
  - (3) 事務所建物の管理及び運営
  - (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 4 所管官庁

内閣府

#### 5 会員の状況

種類	当年度末	前年度末比増減
基金会員	2 7 7法人	0
賛 助 会 員	6 0 法人	<b>A</b> 2
合 計	3 3 7法人	<b>A</b> 2

# (注)・基金、賛助双方の会員は38法人

# ・賛助会員は休会 84 法人を除く

#### 6 主たる事務所

福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目13番24号

#### 7 役員等に関する事項

(1) 理事

代表理事 麻 生 渡 (学校法人福岡工業大学 最高顧問)

専務理事 井 上 暢 忠 常勤

常務理事 成清 四男美 常勤

理事 岩尾 慶一 (岩尾磁器工業(株) 代表取締役社長)

ッ 安浦寛人 (国立大学法人九州大学理事・副学長)

"石川秀美(TOTO株)衛陶生産本部副本部長)

" 佐藤公 亮 (三菱日立パワーシステムズ(株) 営業本部九州支社長)

#### (2) 監事

田 中 正 勝 (九州電力㈱) ビジネスソリューション統括本部 業務本部部長)

長 友 潤 (㈱西日本シティ銀行 地域振興部 部次長)

# (3) 評議員

佐々木 有 三 (九州電力㈱) 代表取締役副社長)

小 野 利 喜 (九電テクノシステムズ㈱) 代表取締役社長)

黒 田 明 (西部ガス㈱) 取締役 常務執行役員)

土 屋 直 知 (㈱正興電機製作所 代表取締役会長)

大 渡 学 (㈱福岡銀行 地域共創部 公務金融法人室長)

下 村 輝 夫 (学校法人福岡工業大学 学長)

筒 井 幸 雄 (㈱安川電機 理事 開発研究所長)

#### (4) 顧問

岩 永 龍 治 (福岡県 商工部長)

澤 田 斉 司 (佐賀県 産業労働部長)

廣 田 義 美 (長崎県 産業労働部長)

磯 田 淳 (熊本県 商工観光労働部長)

高 濱 航 (大分県 商工労働部長)

井 出 義 哉 (宮崎県 商工観光労働部長)

五 田 嘉 博 (鹿児島県 商工労働水産部長)

鮎 川 典 明 (北九州市 産業経済局長)

高 島 収 (福岡市 経済観光文化局長)

塚 元 憲 郎 (前公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 専務理事)

#### (5) 技術企画委員

安 浦 寛 人 (国立大学法人九州大学 理事・副学長)

園 元 謙 二 (国立大学法人九州大学 名誉教授)

久 枝 良 雄 (国立大学法人九州大学 大学院工学研究院教授)

竹 澤 昌 晃 (国立大学法人九州工業大学 イノベーション推進機構 グローバル産学連携センター教授)

吉 田 隆 一 (国立大学法人九州工業大学 大学院情報工学研究院教授)

寺 本 憲 功 (国立大学法人佐賀大学理事・副学長(研究・社会貢献担当))

喜 安 千 弥 (国立大学法人長崎大学 大学院工学研究科 電気・情報科学部門教授)

小 椋 光 (国立大学法人熊本大学 発生医学研究所 発生制御部門教授)

劉 孝 宏 (国立大学法人大分大学 理工学部創生工学科・機械コース教授)

水 光 正 仁 (国立大学法人宮崎大学 理事・副学長)

川 畑 秋 馬 (国立大学法人鹿児島大学 学術研究院理工学域工学系教授)

八 尾 滋 (学校法人福岡大学 産学官連携センター長 工学部化学システム工学科教授)

野 中 一 洋 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 九州センター所長代理)

吉 田 明 則 (九州電力㈱) テクニカルソリューション統括本部 総合研究所長)

五 藤 浩 二 (西部ガス㈱)理事 技術企画部長)

稲 田 知 光 (日本製鉄㈱) 生産技術部長)

谷 口 佳 孝 (デンカ㈱) 大牟田工場 セラミックス研究部部長)

山 本 環 (西日本電信電話㈱ 九州事業本部 ビジネス営業部 ビジネス推進部門 地方創生推進室次長)

前 田 真 一 (三菱日立パワーシステムズ㈱)経営総括部 長崎管理部次長)

河 野 寿 之 (㈱安川電機 技術開発本部 技術企画部技術推進担当部長)

# 8 職員に関する事項

職員	前年度末比増減	
男 子	10名	± 0
女 子	4名	± 0
計	14名	± 0

#### (注) 他の機関からの出向者を含む。

# 9 収支及び正味財産増減の状況並びに財産の推移

(単位:千円)

区分	<del>/)</del>	事業年	度	28年3月期	29年3月期	30年3月期	31年3月期	2年3月期
経	常	収	益	344,979	424,461	348,608	304,986	280,351
経	常	費	用	406,882	471,556	407,699	329,298	314,664
評価当期			整 前	△61,903	△47,095	△59,090	△24,311	△ 34 313
評	価 担	員益	等	△25,904	6,487	△6,021	△48,133	△173,623
当期	経常	外增》	咸 額	△82,869	0	0	0	△339
当期-	一般正明	未財産増	減額	△170,677	△40,607	△65,112	△72,444	△208,275
一般	正味財	産期末	残高	1,382,263	1,341,656	1,276,543	1,204,099	995,824
当期担	旨定正明	未財産増	減額	0	0	0	0	0
指定	正味財	産期末	残高	330,000	330,000	330,000	330,000	330,000
正味	財産	期末列	浅高	1,712,263	1,671,656	1,606,543	1,534,099	1,325,824
資	産	合	計	1,936,892	1,720,001	1,646,226	1,756.363	1,539,049
負	債	合	計	224,628	48,344	39,682	222,264	213,225
正	味	財	産	1,712,263	1,671,656	1,606,543	1,534,099	1,325,824

# 〔参考〕基本財産受取利息及び特定資産受取利息の推移

37 = 1733=24 14130=44 1370=24 14130=43=15					
事業年度 区分	28年3月期	29年3月期	30年3月期	31年3月期	2年3月期
基本財産受取利息	3,893	719	691	1,691	1,692
特定資産受取利息	22,378	7,289	6,775	43,906	46,895
合 計	26,272	8,008	7,466	45,597	48,587

# 10 その他

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。